

兵庫大 職場接種始まる

学生、教職員対象 1000人分用意

コロナワクチン

加古川

加古川市平岡町新在家の兵庫大で5日、学生や教職員を対象に、新型コロナウイルスワクチンの職場接種が始まった。米モデルナ製のワクチン千人分を用意し、7月30日までに1回目、8月中旬に2回目を予定。初日は学生ら約80人が受け、早期の接種にほっとした表情を見せた。(広岡磨璃)

職場接種は6月21日に全国で本格スタートしたが、ワクチン不足で申請の受け付けが止まり、申請後に国の承認が終わっていない分も接種の見通しが立っていない。県ワクチン対策課によると、7月5日朝の時点



職場接種でワクチンの注射を受ける学生
＝兵庫大

で県内での職場接種は142件申請されているが、うち67件が未承認という。

同大は職場接種の受け付け開始から間もなく申請し、ワクチンを確保。学生は約1800人、教職員は同じ学校法人運営の学校園も含め約300人在籍し、このうち半数程度が職場接種を希望すると見込む。5日時点で約550人が申し込んでいるという。

対面授業や部活動などの正常化に弾みをつけるほか、看護学部の学生らが病院などで実習する際、受け入れ先に安心してもらう狙いがある。

教室を接種場所とし、同大教員の医師と看護師がそれぞれ問診、注射を担当。学生らは接種後15分の経過観察を経て退出した。看護学部4年の本岡稚菜さん(21)は「全然痛くなかった。卒業までに実習があり、気分的に外出もしやすくなるので、早く受けられてよかった」と笑顔を見せた。

自身も接種を受けた北島律之^{のりゆき}学部長(52)は「人が接するのが、本来の大学の姿。学内での活動や地域との交流に安心感を持ってほしい」と話した。